

將軍家、戦国武将、天下人、大名茶人、数寄者たちを魅了し続けた名品——
国宝六件、重文三十一件を含む二〇〇〇件が一堂に！

茶の湯

数寄者即翁の茶の湯、
 名物道具との出会い

信長、秀吉、家康と天下人が所持した名画
国宝
煙寺晚鐘図
 伝 牧谿筆
 中国・南宋時代
 十三世紀
 〔後期展示〕
 瀟湘八景の厚い煙霧の中に風景が浮かび上がる様子を描いたもの。足利義満をはじめ、天下人たちが愛した名品。



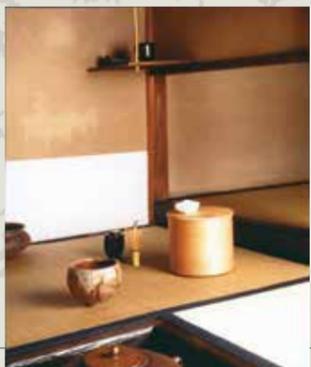
秀吉、不昧が所持した名物茶入
重要文化財
唐物肩衝茶入 銘 油屋
 中国・南宋時代 十三〜十四世紀
 〔通期展示〕
 豊臣秀吉、松平不昧が所持した大名物の唐物茶入。不昧は参勤交代時にこの茶入と道中をともにするほど愛蔵した。



天下の三井戸、戦国武将憧れの茶碗
重要文化財
井戸茶碗 銘 細川
 朝鮮半島・李朝時代
 十六世紀
 〔通期展示〕
 天下の三井戸と称され、枇杷色の釉、胴のふくらみや高い高台などが相まって、優美で風格のある姿をみせる。



即翁愛蔵の茶碗
重要文化財
赤楽茶碗 銘 雪峯
 本阿弥光悦作
 江戸時代 十七世紀
 〔通期展示〕
 即翁が最も愛した茶碗とされる。新席披露と古稀自祝の茶事の際に用いており、この茶碗への格別の想いが窺える。



畠山記念館は、昭和三十九年（一九六四）、株式会社荏原製作所の創業者である**畠山一清**（一八八一—一九七二）によって東京・白金台の閑静な地に開館しました。数寄者でもあった彼は、長年にわたり熱心に美術品の蒐集に努めました。そのコレクションは、茶道具を中心とする日本、中国、朝鮮の古美術品で、国宝六件、重要文化財三十三件を含む約一三〇〇件にも及びます。即翁の蒐集品には、「即翁與衆愛玩」との愛蔵印があります。この言葉には、自らの蒐集品を独占するのではなく、多くの人と共に楽しむという即翁の意思を読み取ることができます。本展覧会は、施設改築工事のため休館している畠山記念館の「與衆愛玩」という即翁の理想を分かち合うために、関西の地において初めて二〇〇件をこえるコレクションを紹介する展覧会です。即翁の審美眼と美意識に触れ、彼が愛した茶の湯をはじめとした日本文化を末永く伝えていきたいという思いを共有する機会となれば幸いです。

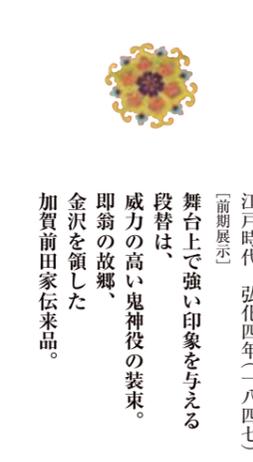


写真：昭和三十年三月十五日、好日会に出席した畠山即翁、
 「無茶も茶」(資進書、淡交社)より転載

能面 翁
伝 福來作
 室町時代 十五〜十六世紀
 〔前期展示〕
 翁の舞は五穀豊饒などを祈り、能の中でも古い要素を残す。本面は伝説的な面打ち師、福來作とも伝えられる。



能を通じた将軍家との交友
段替に唐花根笹文様厚板唐織
 前田家伝来
 江戸時代 弘化四年（一八四七）
 〔前期展示〕
 舞台上で強い印象を与える段替は、威力の高い鬼神役の装束。即翁の故郷、金沢を領した加賀前田家伝来品。



能楽
 即翁の美意識を育てた生涯の友



洗練を極めた一幅
重要文化財
躑躅図
 尾形光琳筆
 江戸時代 十八世紀
 〔前期展示〕
 流水と その岸辺に咲く 紅白の可憐な躑躅。限られたモチーフのみによって、自然の姿を情趣深く描き出す。



書と画の見事な調和
重要文化財
四季草花下絵 古今集和歌巻
 本阿弥光悦書
 依屋宗達下絵
 江戸時代 十七世紀
 〔後期展示〕
 料紙装飾である下絵と書がともに引き立て合う。宗達と光悦による書画のコラボレーション。



朗らかな色彩、柔らかな線描
重要美術品
四季花木図
 屏風(右隻部分)
 渡辺始興筆
 江戸時代 十八世紀
 〔前期展示〕
 四季の花木が四十種以上描かれた華麗な作品。細かな特徴をよくとらえた表現が大きな見どころ。

